

【入会しました】

新島から漁船で疎開して

柳町 鈴木傳次郎

私は終戦の年4月に国民学校初等科に入学した。生地は伊豆七島の新島。1945年(昭和20年)にはもう敗戦は時間の問題となり米軍の艦砲射撃が予想されたので1月25日、島民全員の強制疎開が発令された。国は疎開のための経費は一切負担しなかったが、疎開先は長野県小諸と指定された。村では国と折衝して疎開先を静岡県に、また強制疎開を自由疎開に変更してもらったという。結局伊豆下田の近辺に分散疎開した。私の記憶では、疎開したのは初等科入学後の5月頃。疎開命令からかなり日が経っているが、疎開先との交渉などで手間取ったものと思われる。

後で知ったことだが、B29の東京方面への爆撃はすでに1944年(昭和19年)11月頃から始まっていた。3月10日の東京大空襲に向かう大編隊はもちろん何回もB29の編隊を見ている。空襲警報のサイレンが鳴り30分もすると、「ウオーンウオーン」という爆音を轟かせてB29の編隊が上空を通りすぎる。サイレンの音と爆音は、それはそれは恐ろしかった。銀色の機体が大きく見えたから、かなり低空だったのではないか。日本軍の反撃能力は既になかったから、高空を飛ぶ必要はなかったわけだ。

各家の庭には四畳半くらいの防空壕が作られていたが、ここに避難した記憶はあまりない。木の葉を被せその上に土を盛った構造だったから、危ないと思ったのではないか。ともかくサイレンになると、500メートルくらい離れた山林の中へ村中で避難した。年寄りはりヤカーに乗せて行く。警報解除になると山から下りて家路へ。これが連日。

この頃、制海権制空権は既に米軍の手にあった。4月には沖縄に米軍上陸。政府や軍は不利な情報は国民に知らせなかったが、田舎でも大人達は情勢の悪さを肌で感じていたようで、5月になって漸く疎開先が決まった。新島から下田まで約40キロ海を渡らなければ

ならない。凡そ10トンの小さな漁船4隻で、450人くらいの村民を何回にも分けてピストン輸送。米軍の空母は本土近くにもまで進出しているらしく、艦載機が飛ぶのも見られる状況。これに見つかればお陀仏だから夜間に走る。

当時の漁船の動力は焼玉エンジンで重油を燃料としたが、油の品質も悪くなっていたから時々エンストを起こす始末。それに一刻を争うのでエンジンを目一杯回転させるため、煙突から火の粉が出てくる。それも敵機の目標になるというので薄氷を踏む思い。当時の船では3時間くらい要したが、近頃の漁船はエンジンも優秀で1時間もかからないとか。隔世の感がある。無事全村民が海を渡れたのは不思議なくらいだ。

各戸一人は郷土防衛隊で残ることになっていたが、我が家では17歳の兄がこの役目を負うことに。浜から船に乗る時、あちこちで家族が別れを惜しむ光景は今でも思い出す。情勢からお互い二度と会えないことが分かっているからだ。

我が家では伊豆下田からそう遠くない稲梓というところ、農家の納屋を借りて住むことになった。疎開先では学校へ行くのが嫌で時々道をそれ山に入り込み、下校時間になると何食わぬ顔で家に帰るという寸法。ビワの木に登ってビワを食べながら下田の町を攻撃する艦載機を目の当たりにした記憶がある。このズルは3日ほどでバレて母からきつく叱られた。

終戦の日のことに触れておきたい。その日は母に連れられて親戚の疎開先を訪ねる途中、農家の前を通ると「今重大放送があるから一緒に聞きましょう」と誘われた。私は外で遊んでいたが、放送が終わると家の中が何かほうっとした安堵の気配が感じられた。母が出てきて「戦争は終わったよ、家に帰れるよ」と言って嬉しそうだった。敗戦でこれからどうなるかもわからないのに、ともかく戦が終わったことが嬉しかったのだろう。青空は高くいい天気だったことが妙に印象に残っている。それからの親子の足取りは心なしか軽やかに思えた。

市民活動フェア

九条の会さかども出展しています！

日時 3月18日(土曜日)10時~15時(途中からでも!途中まででも!)

会場 入西地域交流センター(九条の会さかどブースは2階です)

市民活動やボランティア活動をしている活発な皆さんが参加する市役所のイベントで、坂戸市民と9条について語りあえる貴重な機会にご参加を！

さて、ここまで当時6歳の私の戦争の思い出を綴って見た。今年も77回目の8月15日を迎えた。テレビで映画『原爆の子』やドキュメンタリー『インパール作戦』、『沖縄戦争孤児』、『中国侵略レポート』等々を観た。既に見たものもあったが何回見ても泣けてしまう。

私と同じ6歳でも沖縄の少年の見たものはこの世の地獄。インパール作戦でも兵糧も武器弾薬の補給もないのに死守せよと命令し、命令した司令部は司令官以下さっさと安全なところへ高飛びしてしまう。無駄とわかっているのに『大和』以下残存艦隊を片道燃料で沖縄へ特攻出撃させ、3千人近い若者を死なせてしまう。本土防衛は竹槍で対抗させようとする。すでに米兵には自動小銃があてがわれていたというのに。

当時の指導者はこんなお粗末なことを真剣に議論していたかと思うとやりきれない。どうしてこういうことになってしまうのか。政府や軍部中枢にも頭のいい人もいただろうがいたん慨嘆に堪えない。ところで実際に戦争に従事したり地獄を見た人は95歳から96歳までで、後4年から5年でいなくなってしまうという。この生の声を聞き記録する作業が急務である。

【投稿】連載をまとめて読んでみませんか

元町 新井竹子

川越市の斉藤美紀子さんが書いておられた『地位協定見直し！全会一致』の3回目は4月号。それではと思い、1回目からを取り出して読んでみた。

これは川越市議会へ請願書を出しての取り組みであるが、課題は何であれこのように取り組んだなら、良い結果が得られるのだということが、丁寧に書かれていて感動だった。

この請願が全会一致で通ったとしても、国の政策が大きく変わることはないかもしれない。しかし、このことをこのように丁寧に進めることで、良い結果を得たことは、進めた人々を励まし、連帯の気持ちを育んだのではないだろうか。

「この人は無理だろう」と考えたりせず、どの党だからとも考えず、個々の議員に当たる。押しつけない言い方はせず、率直な気持ちで会話を続ける。そして学習も大切にする。

このやり方なら、あのこともこのことも成功するのではないか。やってみようという気持ちが、みんなの中に生まれるかもしれない。

この連載を3回分まとめて、読んでみようと言う方が出て欲しいです。

【投稿】田中栄さんからの問いかけに

仲町 山本勝利

「安全保障条項を欠いている」ことを問題にされているようですが、安全を完全に保証できるのは武力によらないことが最大・究極の保障だと考えます。

この地球上から、紛争はなくならないでしょう。紛争の解決に手段として武器使用は永久に放棄すること

です。陸海空軍は持ちませんと言っておられます。そのとおりです。「国際紛争を解決する手段としては」の「は」のことですが、他の手段として平和的外交的手段に置き換えれば良いと思います。

ロシア、プーチン政権によるウクライナ侵攻をみても、「軍事には軍事で」と際限ない軍拡に突き進むことになります。9条を持つ日本国だからこそ、9条をいかした平和構築を世界に発信していくことが重要なことではないでしょうか。私達に問いかけています。

【9条バトンリレー(5)】

人にやさしい農業で

千代田から転居 松本はつえ

今、日本の食糧自給率は40%に届かないところにあります。これはつまり、自国で食料を賄えない国であるということです。

人は食べなければ生きていけません。この日本では自国で生産される食糧ではなく、輸入されたものを優先にして生きています。

もし、輸入がストップされたら、食べるものを得ることが難しい状況になってしまいます。もし、日本がウクライナから小麦を買っていたらもっと大変なことになっています。

国民の命を守ることが国の役目です。戦争することは命を守ることにはなりません。戦争をしないように国民は皆で声をあげて行動し、変えていきましょう。私は、日本の農業が発展して、自国で食料を作り、自給率をもっと高めていくことが、これからの日本に必要なことだと思います。

私達は坂戸からこの新しい土地、寄居町のおがすま男衾に転居してきました。私の娘は農業・化学肥料を使わない、環境を守り、人にやさしい作物を作ることにしました。輸入の肥料や種子ではなく身近の落ち葉や野菜の残渣、草などを利用して土地作りをして、日本の土地にあった固定種をまきます。私はこの様な農業が成り立ち、広まっていくように手伝い、支えていくために頑張ります。(次回のバトンは紺屋の中村清子さんに)

運営ピンチ！カンパのお願い

運営に関わる経費をカンパによって賄っている九条の会さかどでは、つどいを開催できない状態が続いていることで、財政はピンチを乗り越えています。ニュースひとつを発行するだけでもお金がかかっています。皆様のカンパをお待ちしております(手渡しでも！)

【郵便振替口座】

- ・加入者名 小林忠夫
- ・口座番号 00570-1-7977
- ・通信欄に「九条カンパ」とご記入ください。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

11月25日、12月23日、1月27日(第4金曜日14時~16時)コロナ終息まではインターネットのZoom会議での開催です。参加方法については、お問い合わせください。